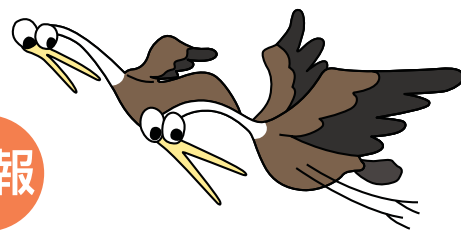


# 気になる!! 今季のツル飛来状況 **速報**

四万十つの里づくりの会では、毎年ツルが訪れるこの時期に、地元の会員や澤田佳長氏、四万十川自然再生協議会、国土交通省などの協力のもと、朝夕を中心にねぐらやえさ場となっている場所へ出向き、個体数や行動を把握しています。また、地元の方々から確認情報が入った際にも現場に急行しています。



中筋川上空をさっそうと飛行するナベヅルの群れ

## 気になる種類 ほとんどがナベヅルです

平成21年1月20日現在、四万十川および中筋川流域で確認されているのは、ほとんどがナベヅルで、水田へ降りて餌をついばんでいる姿がしばしば見られています。

また、11月下旬には、日本ではめったに見られないナベグロヅル（ナベヅルとクロヅルの雑種）も1羽確認。幡多地域では実に32年ぶりの飛来となりました。



ナベヅルの群れの中にあるナベグロヅル(中央)。ナベヅルより体が大きく、黒色が淡いのが特徴です

## 気になる数 ピーク時には72羽確認。しかし、12月に入って急に減少

平成20年10月27日から約2カ月半の間確認されているナベヅルの動向を見てみると(グラフ参照)、最初に確認された日以降その数は増加し、11月6日には今季最大の72羽を記録しました。その後増減はあるものの、12月初め頃までは30~40羽程度の群れが常に確認されていました。しかし、それ以降は13~14羽にまで減少。そして、9羽が当地で年を越しました。

11月15日頃および12月3日以降確認数が減った理由としては、狩猟や落ち鮎漁の解禁でツルのねぐら付近に人や車などが近づいたため、ツルが驚いて飛び去ったのではないかと考えられています。



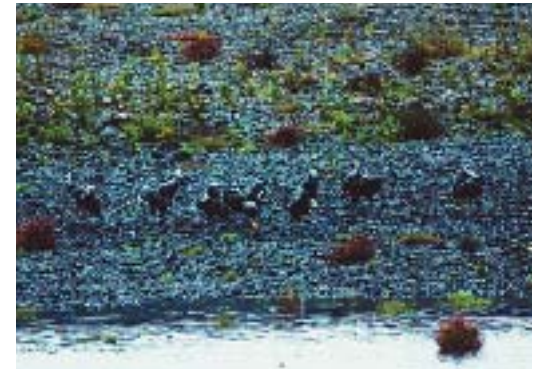
確認数ピーク時の中筋川流域の水田にて(11月)



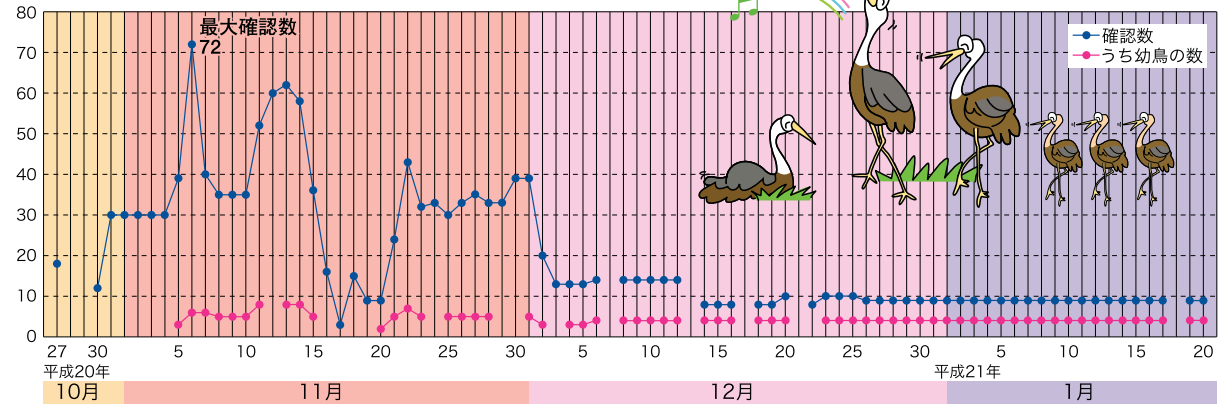
水田の上を元気に飛び回るツルたち



水田で遊んでいるツル



四万十川のねぐらで寝ているツル(11月)



ナベヅルの日別の最大確認数(1月20日現在の速報値) 資料:国土交通省中村河川国道事務所 (注) 空欄の日については、ツルは確認できていない。



四万十川で水浴びをしているツル(1月)



## あなたもツルの調査員

四万十川および中筋川流域でツルを見かけたら、ぜひ当会まで情報をお寄せ下さい!!  
その際は、発見場所、時刻、発見時の状況(飛行・着地の別)など、できるだけ詳しくお知らせ下さい。

■四万十つの里づくりの会 事務局(担当:佐伯・小笠原)  
tel. 0880-34-4333 (中村商工会議所内)

## 子どもたちがツルの里づくりの実施状況を見学

平成20年度 第2回ツルの自然体験学習会

平成20年11月4日、今年度2回目となるツルの自然体験学習会を開催しました(国土交通省の協力により開催)。

参加した四万十市立中筋小学校と東中筋中学校の子どもたち25名は、ツルのねぐら・えさ場の整備が行われている中山地区・江ノ村地区の現地で、国土交通省の四万十川自然再生事業「ツルの里づくり」やツルの生態等について学びました。その後、デコイ(ツルを呼び寄せるための模型)の設置の見学や、ツルのえさとなる水生生物のえさ場への放流などを行いました。



心地よい秋風が吹くの中での現地学習に子どもたちは大はしゃぎ。感想を聞くと、「もっとたくさんツルが来るよう、自分のことをしたい」と大人顔負けの頼もしい返事をくれました。

この学習会の様子は新聞やテレビなどでも報じられ、当会の活動に対する地域の関心の高さを知ることができました。



えさ場への水生生物の放流(江ノ村地区)



鉄筋で形を作り、グラスファイバーで表面を塗り固めて作ったデコイは、空から見て目立つよう高さ110~150cmと実際よりも少し大きめに作っています



デコイの見学(江ノ村地区)



放流した水生生物はメダカやヤゴなど、えさ場周辺の水路で捕まえたもの



デコイに触れてみる子どもたち(中山地区)